

# 2026年度 説話・伝承学会春季大会プログラム

日時：2026年4月18日（土）・19日（日）

会場：天理大学 柚之内キャンパス 研究棟 3階 第1・第3会議室

共催：天理大学 歴史文化学科 後援：天理大学 人文学部

【説話・伝承学会事務局／大会事務局】代表 齊藤 純

〒632-8510 天理市柚之内町1050 天理大学人文学部 歴史文化学科 齊藤研究室

TEL 0743-63-7179（齊藤研究室） Fax 0743-62-1965（事務局） Eメール j-saito@sta.tenri-u.ac.jp

\*今回の大会は設備・スタッフの事情により対面方式で行い、ネットによる同時配信はいたしません。

## 4月18日（土）

【委員会】第2会議室 11:00～12:30

【公開講演会】第1会議室 13:00～15:00

○開会の辞 大会事務局代表 13:00～13:10

○黄地百合子（説話・伝承学会）「奈良県の民話 その多様な伝承」 13:10～14:00

○藤田明良（天理大学国際学部教授）「海に響き合う伝承—<sup>ま</sup>媽祖<sup>そ</sup>信仰のひろがりと日本—」  
14:10～15:00

【学会賞授賞式・総会】第1会議室 15:15～16:15

## 4月19日（日）

【研究発表】第1会議室 10:00～12:35

①藤原潤子「インターネット空間におけるロシア昔話「まるパン（コロボーク）」のパロディ  
化の諸相」 10:00～10:35

②栗木謙成「失踪案件をめぐるネットロアと事件体験・報道 —北朝鮮による日本人拉致問題を事  
例として—」 10:40～11:15

③増田こころ「河童の証文伝承の機能 —近世から近代の事例を中心に—」 11:20～11:55

④岩本 凱「伝説成立の背景を探る —東北地方の坂上田村麻呂伝説を題材に—」 12:45～12:35

【委員会】第2会議室 12:40～13:40

【食事・休憩】第1会議室 \*学内の売店は休みで、付近に食堂等はありません。各自食事をご用意ください。研究棟1棟玄関フロアに飲料自動販売機があります。

【ワークショップ】「十津川の盆踊り —「口説き」の実演と盆踊り体験—」第3会議室

14:00～16:00

○解説「十津川の盆踊りは何を伝承し、生成するのか」 中川 眞（大阪公立大学特任教授）

○「口説き」の実演（武蔵踊保存会）

○十津川の盆踊り体験

○閉会の辞 事務局代表

\*18日（土）が天理教の祭りと重なりました。また、山辺道の行楽季節でもあり、宿泊される方はお早めに宿のご予約を。場合によっては、奈良・桜井・郡山・京都・大阪など天理市域外の宿もご検討ください。

## 〈公開講演要旨〉

○奈良県の民話 その多様な伝承

説話・伝承学会 黄地百合子

「奈良県の民話」という時、まず思い浮かべられるのはどんな話だろう。例えば「三輪山伝説」のように神話の時代にまで遡れるものを初め、奈良県の民話では伝説の豊富さが際立つ。有名な歴史上の人物や歴史的物事に関わる様々な話が伝わっているからである。ただ、それらには古典など書物によって伝承されたものも多い。一方、1960年代半ばから2000年頃にかけて、色々な分野の人が県内各地で口承の民話の採録を

実施、その成果により伝説以外に昔話や世間話にも多彩な話が伝わってきたことが明らかになった。

そこで前半では、かつて昔話が乏しいと言われた奈良県で、多様な伝承が掘り起こされた経過を振り返り、伝説・昔話・世間話、それぞれの主な話を取り上げながら民話の全体像を見渡すこととする。後半では、奈良県育ちの私が祖母や母から受け継いだ昔話の幾つかを口承の話の具体例として紹介し、県内の伝承が近隣の府県の様々な地域と繋がっていたことに注目したい。また、現代そして今後、民話はどのように継承されていくのかについても考えたいと思う。

## ○海に響き合う伝承—<sup>まそ</sup>媽祖信仰のひろがりと日本— 天理大学国際学部教授 藤田明良

媽祖は宋代に中国福建中部の莆田地方に出現した地方的航海神であったが、当地の海商の活動によって、中国中南部沿岸に信仰が広がる一方、当地の士大夫層の運動で皇帝から授与される神階が上昇し、中国の有力な航海神になっていった。国家的航海神としての地位を高める一方で、海域世界の心性に響き渡る伝承を獲得し、中国北部海域などに信仰が広がっていった。

日本列島には中国人の来航・移住に伴って15世紀に沖縄、16世紀に九州に伝播した。那覇や鹿児島に天妃宮が建立され、長崎には媽祖堂を備えた唐寺が建立された。薩摩の野間権現のように、信仰が中国人から日本人に広がってケースも出現した。また、かつて船に安置されていた小媽祖像（船菩薩）は、帰化唐人や船乗りの家門の守護神など、様々な形で祀られることになった。

東日本の媽祖信仰は、徳川光圀によって建立された常陸の天妃社に始まり、内水面航路と太平洋航路によって利根川方面と宮城・下北半島方面に広がっていく。海運・漁業関係者の船神としてだけでなく、水神や二十三夜講の主神などに媽祖は転生していった。その中で、近世的水上交通体系の成立に伴って顕在化する船玉神信仰と融合しながら、廻船の守護神に転生して契約儀礼の場にも登場する。国学の発展の中で知識人たちから日本と中国の船玉神を峻別する見解が繰り返されるが、海に関わる人々での人気は、衰えることはなかった。

### 〈研究発表要旨〉

#### ①インターネット空間におけるロシア昔話「まるパン（コロボーク）」のパロディ化の諸相

神戸市外国語大学准教授 藤原潤子

本発表は、ロシア昔話「まるパン」（以下、「コロボーク」）がインターネット上で風刺画的画像やアネクトドとしてパロディ化している現象を、現代の説話伝承として捉え直す試みである。「コロボーク」は、貧しい老夫婦が作った丸いパンが家から逃げ出し、道中で出会う動物たちをかわしながら進むものの、最後にキツネにだまされて食べられる、という筋の昔話である。まず、この昔話が絵本化などを通じて広くロシア社会で共有されるようになったことを確認した上で、インターネット空間ではどのような形式上の操作によってパロディが成立しているのかを整理する。次に、そうしたパロディによって語られる社会問題に注目し、画像とテキストのそれぞれが、どのような感情を喚起しうるのかを検討する。以上を通じて、昔話の枠組みが現代ロシアにおいて、同時代の出来事や不安を表現するためのフォーマットとして用いられていることを示したい。

#### ②失踪案件をめぐるネットロアと事件体験・報道 —北朝鮮による日本人拉致問題を事例として— 名古屋大学大学院 栗木謙成

日本の海岸付近での失踪や不審者との遭遇などにまつわる話はインターネット上に一定数見られる。そのうちの一部には、1970～80年代を中心に起こった北朝鮮による日本人拉致事件を連想させるものがある。

本報告は、インターネット検索により、2003年から2023年にかけて投稿された、拉致事件にまつわる単語を含む34件の話の内容について検討するものである。実際の拉致事件として報道されている事例は、拉致の経緯に関して4つの段階に分けることができ、さらに話の筋書きとしては大きく5種類に分類可能であるが、興味深いことにこのうち4種類はネットロアとして投稿されたものと共通点を多く持っている。これらのネットロアの内容は、実際の拉致事件とほとんど同じ状況下に置かれているか、拉致事件の周囲で実際に起きた不審事案と酷似していた。

この結果が示唆するのは、ネット上の物語（ネットロア）のテキストと社会的事件がある程度共通性をもつことである。とくに拉致事件においては、拉致にまつわる体験や報道がネットロアに影響を与えているとみてよく、本発表では、ネットロアにおける物語の虚構性について再考してみたい。

#### ③河童の証文伝承の機能 —近世から近代の事例を中心に— 國學院大學大学院 増田こころ

悪事を働いたために懲らしめられた異類は、しばしば物品を遺す。そのなかには、自らの悪事を詫び二度と悪事を働かない旨を誓う証文を遺すものがある。証文を遺すのは、疱瘡神、疫病神、狐狸貉、天狗、鯰などが

挙げられる。本発表では、先行研究で正面から論じられることが少ないものの、全国に分布し報告例の多い河童に着目し、証文を遺すに至るまでの経緯を説いた話を取り上げる。

河童が証文を遺す話は、河童が魚を持参する話、河童が妙薬などを伝授する話と話型を同じくする。河童が物品を遺す話を再度整理し、証文を遺す場合の特徴を把握する。また、証文が伝存しているか、かつて証文を所持していた事例を個別に取り上げて考察することで、近世の文字文化のなかで発展したと考えられる河童の証文伝承の機能を明らかにしたい。

#### ④伝説成立の背景を探る —東北地方の坂上田村麻呂伝説を題材に—

東北芸術工科大学 芸術文化専攻 歴史文化研究領域修士 岩本 凱

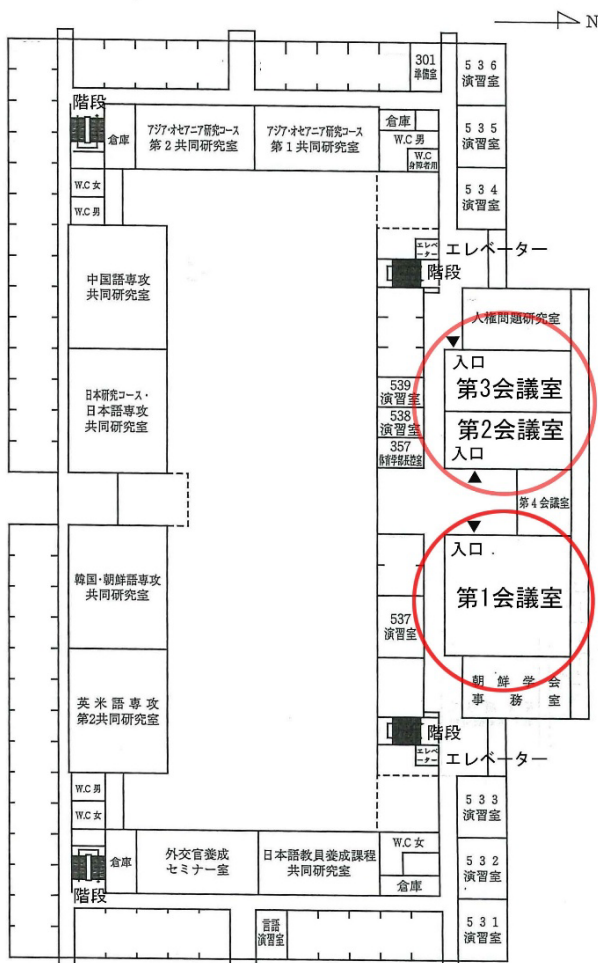
坂上田村麻呂伝説は、古くからの研究史と数多の先行研究がある。ここでは、伝説の誕生と流布に関して、畿内の宗教者たちが地方への布教に利用したとする、中央との関わりで説明されてきた。

同じ伝説研究の分野に目をやれば、菊池勇夫氏は、中央から伝播したとされる義経北行伝説を取り上げ、東北地方発祥の可能性に言及している。注目すべきは、この視点を田村麻呂伝説に導入した田中秀和氏である。氏は、旧津軽藩領内に分布する伝説を取り上げ、伝説成立の背景に、蝦夷反乱やロシア船来航という、対外危機や政治的要素が潜んでいた点を指摘した。しかし、上記の要素に直面したのは、津軽藩のみではない。しかも、他藩の領域でも当該伝説は確認できる。そこで本発表では、かかる視点に基づき、津軽藩以外の事例を検討する作業を通して、研究の更なる深化を目指すものである。

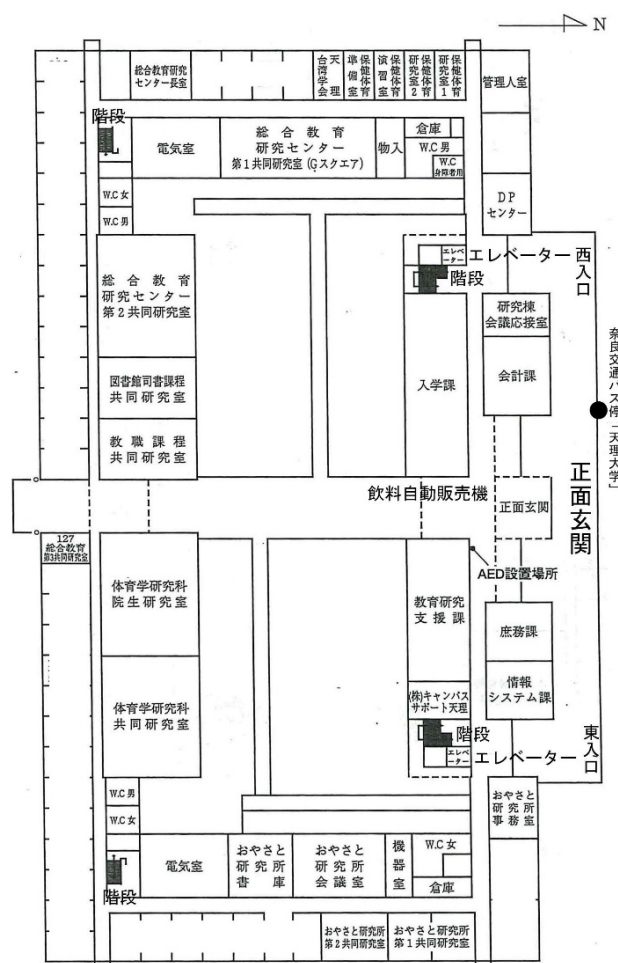
#### 〈ワークショップ〉十津川の盆踊り —「口説き」の実演と盆踊り体験—

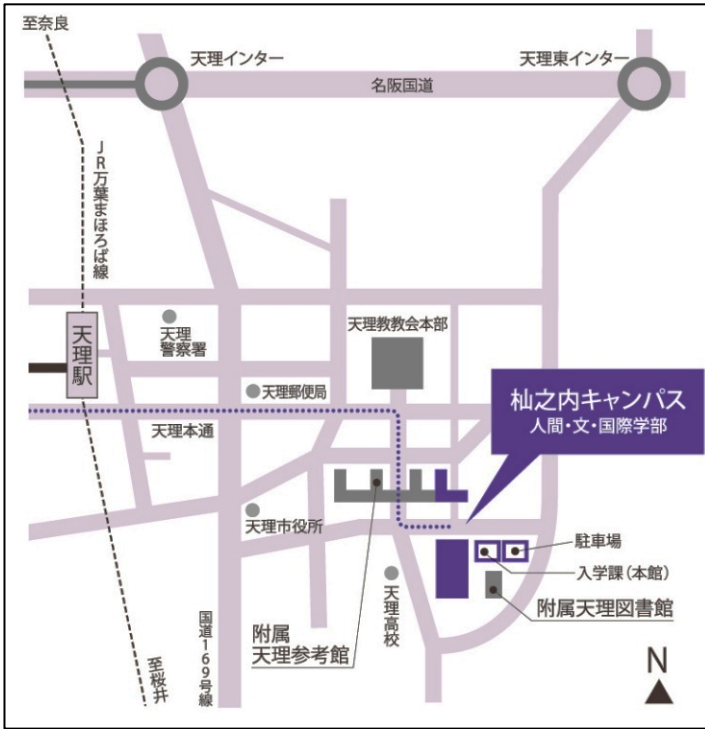
「武蔵踊保存会」は十津川村のほぼ中央部に位置する大字武蔵にて、中世後期に淵源をもつといわれる風流系の太鼓踊り、明治以前の近世の要素を残した口説踊り、明治末から大正、昭和のはじめに流行した民謡にフリをつけた「ばか踊り」の継承を目的として活動している。太鼓踊りである「大踊り」は1989（平成元）年に国指定の重要無形民俗文化財に指定、2022年（令和4年）にユネスコ無形文化遺産に登録された。過疎化で集落の人口が激減するなか、全国各地での公演など積極的に外部との交流を続けている。会長は平瀬肇<sup>ただかず</sup>氏。

研究棟 3階



研究棟 1階





\*天理駅から天理大学天理大学校舎まで徒歩約25分です。土曜・日曜に天理駅から天理大学行のバスの運行はありませんのでご注意ください。

